

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 東島根中学校 校長 大瀧 訓久

1 学校教育目標

○思いやる ○自ら学ぶ ○やり通す

2 学校図書館の目標・ねらい ー身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度ー

- ① 学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③ 学校図書館を活用し、自分の考えを表現できる生徒を育てる。
- ④ 読書に親しみ、読書習慣と読書力をつける。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 10,886 冊（蔵書基準冊数 10,160 冊）／ 蔵書率 %（前年度末 108%）									
	② 新規購入図書 356 冊 / 廃棄図書 542 冊 / 増減冊数 186 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.2%	3.2%	12.2%	10.2%	8.0%	4.7%	3.0%	9.9%	5.4%	41.1%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：月曜日～金曜日／昼休み～17：00									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 7.3 冊（前々年度末： 9.5 冊）									
	③ 学校図書館利用率 1,584 %（前々年度末： 1,084 %）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 11,308 冊（蔵書基準冊数 9,040 冊）／ 蔵書率 125%									
	② 新規購入図書 525 冊 / 廃棄図書 103 冊 / 増減冊数 422 冊増									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2%	3.2%	12.4%	10%	8.3%	4.6%	3.1%	9.7%	5.6%	41%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間： 10時45分～16時30分 （前年度からの変更 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 9.7 冊（前年度末： 7.3 冊）									
	③ 学校図書館利用率 1,808 %（前年度末： 1,584%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。 ② 学校図書を活用した探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。 ③ 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書をすることができる。		① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比 10%増
② 図書館の本や新聞等を活用しながら探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。		② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合 100%
③ 学校図書館のきまりや仕組みを知る。		③ 学校図書館オリエンテーション（4月）の学年全生徒の受講率 100%
目標達成状況		
① 年間貸し出し冊数を増加することができた。		
② 学校図書館や ICT を活用し、探求活動の授業を実施することができた。		
③ 学校図書館オリエンテーションを実施した。		

第2学年	① いろいろな読み物を読もうとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る。
今年度の成果目標 ① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進めることができる。(ビブリオバトル実施予定) ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	達成基準 ① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
目標達成状況 ① 年間貸し出し冊数を増加することができた。 ② 学校図書館やICTを活用し、探求活動の授業を実施することができた。ビブリオバトルでは生徒のプレゼンテーション能力の向上や多様な興味関心をひきだすことが出来た。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解しつつ活用することができた。	
第3学年	① 読書をとおして考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
今年度の成果目標 ① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、表現することができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、仕組みについて考えたり、話し合ったりすることができる。	達成基準 ① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 読書や探究活動の授業を年2回以上実施するクラスの割合100%
目標達成状況 ① 年間貸し出し冊数を増加することができた。 ② 学校図書館やICTを活用し、探求活動の授業を実施することができた。 ③ 1学年時、感染症流行等の影響で1/3の生徒に実施を先送りしていた図書館オリエンテーションを図書館活用ガイドンスとして2月に改めてとり行うことができた。	
5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 限られた書架スペースのもと、魅力的な資料構成をめざし、廃棄、選書を厳選する。視覚効果を考え、思い切って書庫にしまう資料と平置きにする資料を選定する。	書架スペースの見直しを行い、学校図書館サポートチーム、スーパーバイザーに助言を請い、必要な書架の計画を行うとともに、活用しない資料を閉架書架にまとめた。
【学校司書との連携・協働】 ① 図書館オリエンテーションを1年生の国語科教員と日程を調整し、国語の授業時間内で実施する。 ② 返却ボックスを設置し、スムーズに返却処理ができるように工夫する。 ③ 調べ学習時に必要な資料について積極的に担当教員と学校司書が連携・協働に取り組み、授業や修学旅行に必要な資料について相談や情報交換を行なう。	① オリエンテーションを効果的に実施した。 ② 返却ボックスを運用し、適切に処理を行った。 ③ 教科毎に選書リストを作成し、必要な資料を購入した。また、授業や校外活動の資料の提供を行った。

【その他】

学校図書館の立地が教室棟から遠いため、クラス、学年貸出などのアウトリーチサービスの工夫をするとともに、各生徒のデバイスから学校図書館のOPACにアクセスできる仕組みなどを引き続き紹介する。

学年貸出などのアウトリーチサービスの工夫をし、各生徒のデバイスから学校図書館のOPACにアクセスできる仕組みを活用した。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

学校図書館の立地が教室棟から遠い条件を逆に活かし、OPACや学年貸し出しなどでアウトリーチサービスを充実し、積極的に図書館を活用した学習環境を整え、展開していきたい。
また、図書館の書架計画の見直しを行ったことにより、より使いやすい図書館に整備していきたい。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

時代はネットで調べる習慣があるようであるが、図書館を活用して時間をかけて学んでいくこと調べていくことが、深い学びになる。ぜひ来館者数を伸ばしてほしい。